

# 立川

3

立川と語ろう 立川に生きよう  
March 2007  
écoutez bien Vol.25 No.268

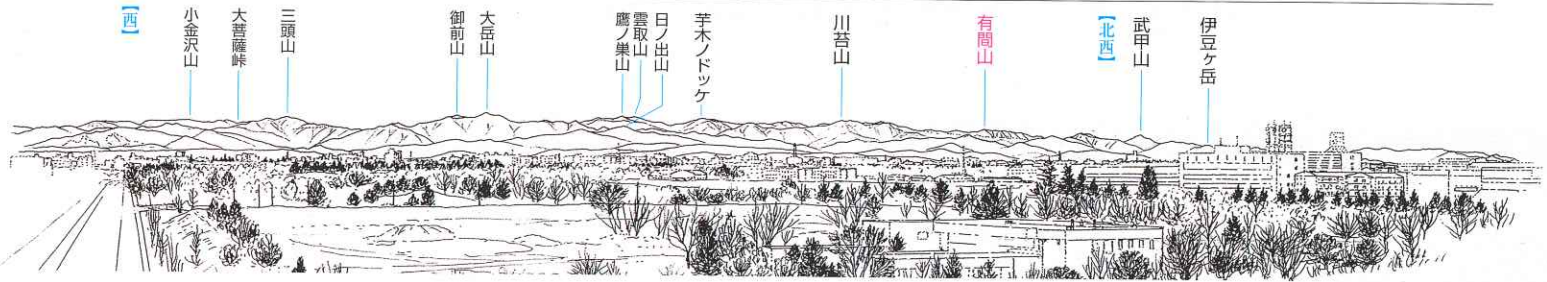




# 有間山

案内人: 守屋龍男 写真: 中村 伸  
山岳展望図: 藤本一美

1214m



多摩モノレール 立川-高松間より

## 名栗湖奥の尾根歩き

### [有間山へのコース]

〈車の場合〉

立川=1時間30分=名栗湖=30分=有間峠→  
20分=無名ピーク→1時間=有間山(タタラノ頭)→  
40分=有間峠=10分=逆川乗越=20分=名栗湖  
〈その他のコース〉

西武池袋線飯能駅=バス=名郷→1時間40分→  
鳥首峠→1時間=橋小屋ノ頭→40分=有間山(タタラノ頭)→  
40分=有間峠→林道1時間=逆川乗越→  
20分=蕨山→1時間30分=名郷



立川からは北西の方向に見える屋根型の大きな山が有間山で、東京都と埼玉県の境界付近に位置する。橋小屋ノ頭(標高1163m)やタタラノ頭の峰々を総称して有間山という。山名の由来は、かつて、この地の豪族有間氏の持ち山だったからと聞く。

林道の通行止めが解除された4月に登った。車で埼玉県飯能市の名栗湖(有間ダム)を越え、ヤマザクラが満開の逆川沿いの広河原林道を一気に上った。稜線近くの真新しい標識が立っている有間峠で駐車。少し戻った所にある登山口から登る。

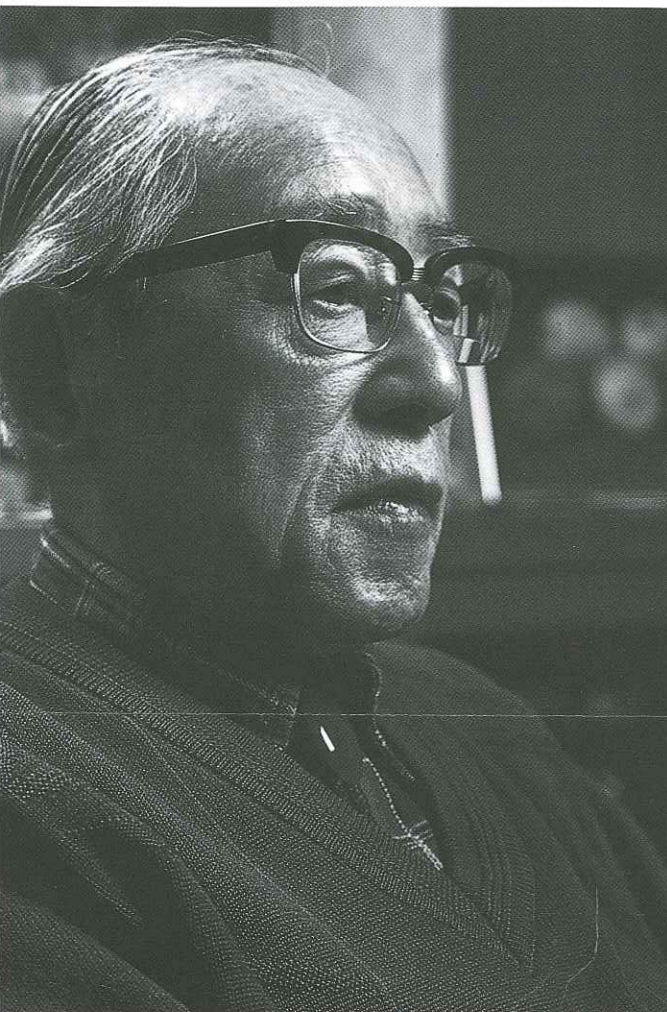
藪をかき分けながら急な道を登り、尾根に出る。そこから道ははっきりとして歩きやすい。すぐピークにでるが、これは無名ピークで目指すタタラノ頭はまだ先だ。一旦下り、湿地のような中を行く。またもや道形が薄くなりいささか不安になるが、勘を働かせながら先に行く。かつての名うての藪山の雰囲気は今も残っている。

急な岩場を這い上がるとタタラノ頭である。以前は展望も殆どなかった山頂も、樹木は刈り払われ展望も良くなったようだ。しかし残念ながら、我々が登ったときは深い霧(ガス)で展望はさっぱりであった。

林道から少し外れた逆川乗越(峠)からは橋小屋ノ頭や蕨山へ比較的短時間で登れるので夏などは大勢の登山者で賑わう。なお、林道は落石などがあるので十分に気を付け、林業作業の邪魔にならないようにしたい。



# 甘い誘いに決してのらないで



於：柴崎町 ご自宅で 写真：五来孝平

## 薬物乱用防止を訴え続ける 森谷 孝さん

■森谷 孝(もりや・たかし)／1924年東京生まれ。1930年から立川に住み、薬剤師として95年まで柴崎町で薬局を開業。その間市社会教育委員や保護司など公職多数。80年から東京都覚せい剤等乱用防止推進員、88年設立の立川市薬物乱用防止推進協議会会長として薬物乱用防止の活動を続ける。講演会やイベントなどを通じて青少年に薬物の恐ろしさを訴えている。97年には勲五等瑞宝章を受章。

■芳賀敏博(はが・としひろ)／えくてびあん編集長

**芳賀** 1924年(大正13年)2月のお生まれですから83歳におなりになるわけですが、本当にお若いんですね。薬物乱用を呼びかける講演などは年何回くらいされているんですか。

**森谷** 時期的に集中したりもしますが、立川市内の学校を中心に年10回くらいですね。そのほか市内の自治会が支部単位で開いている地域健康フェアでも、立川市薬物乱用防止推進協議会として啓発活動をしています。

**芳賀** 薬物乱用防止の活動を始められたのは、やはり薬剤師さんだったから？

**森谷** それもありますが、保護司として多くの悲惨なケースを見て、小さい子どものうちから教育をしなければいけない

と痛感したんです。しかし、こういうことはひとりではできませんから、同調し協力してくれる人たちに呼びかけて立川の協議会を作りました。それ以来20年近く活動してきています。

**芳賀** その前から東京都の覚せい剤等乱用防止推進員もされていますね。

**森谷** そうです。当時は覚せい剤問題が中心で、東京都が呼びかけて推進員制度ができました。ただ、東京都全体となると横の連携がなかなかできなくて、どうしても個別の取り組みになってしまう。効果を上げるためには地域で取り組むことが必要じゃないかと、立川独自で協議会を立ち上げたのです。市の助成や協力もいただき全国的に見ても立川は薬物乱

用防止に取り組んでいる方だと思います。

**芳賀** 麻薬とか覚せい剤という、われわれのふつうの暮らしとは無縁じゃないかと思ってしまふんですけど、実は静かに蔓延していて、しかも低年齢の子どもたちにまで広がっているといひます。ちょっと調べてみましたら、ふつうに売られている風邪薬とかライター用のガスなんかも薬物になるんですね。こういう薬物のどこがいちばん怖いんでしょうか。

**森谷** 薬物の依存性です。タバコを吸う人がなかなかやめられないのと同じですが、もっと強烈なものです。人間の脳神経は血液脳関門というところで厳重に守られているのですが、乱用される薬物はここを通過して情報伝達系に働き、知覚や感情、気分などに影響を与えます。それを繰り返すと、やがて薬が切れると“依存中枢”とも呼ばれる脳の扁桃核が「薬が欲しい」という命令を出すようになってしまふ。そうなる自分がやめたくてもコントロールできない。薬をやめさせない。そこが恐ろしいんです。依存症それ自体を治す薬はありません。集団生活をしながら互いに自助努力をして依存症を克服したりしますが、克服できない人の方が多い。一度はまりこんだら泥沼から抜けられないわけです。

**芳賀** タバコがやめられない僕のような人間には耳の痛いお話ですが、やはり薬物には絶対手を出さないということが大事ということですね。

**森谷** タバコは自動販売機で買えますが、乱用される薬物は非合法で暴力団の資金源です。ライターのガスなど依存性のないものでも、より強い薬物への導入になります。タバコも同じ。マリファナなどはタバコの経験があると抵抗感がありません。そういう青少年は暴力団などの標的にもなりやすい。実際、薬物乱用

者のほとんどが未成年時代にタバコを吸っています。<タバコはゲートインドラッグ>と言うのはそのためです。自分だけが苦しむのならまだましで、依存から乱用を繰り返すと慢性中毒になり、幻覚や妄想を起こすようになります。本人にとっても家族にとってもまさに地獄。被害妄想から凶悪犯罪を起こすことも多い。大きな社会問題です。ですから、子どもの頃から薬物を一度やったら人間でなくなってしまう>と教えることが必要なんです。

**芳賀** 薬物汚染が若年層化しているそうですね……。

**森谷** 薬物乱用は戦後混乱時代の第一次、昭和50年代をピークにした第二次、そして平成6年頃からの第三次と分けられるのですが、現在も進行している第三次乱用期の特徴は、第一次、第二次のほとんどを占めていた覚せい剤の他に、インターネットで売られる脱法ドラッグなど多種類になり、覚せい剤も注射ではなくライターで熱を加えて吸引したり、子どもたちが遊び感覚で誘い込まれやすい。価格も非常に安くなって子どもの小遣いでも買える。背後にいる暴力団のほか外国人などが街頭で売ったりする。小学生のような子どもまで無差別に薬物の誘惑にさらされ、簡単に手に入る。非常に危ない状況です。依存するようになった子どもが薬代欲しさに友だちに薬を売ったりすれば地域に急速に薬物が広がります。子どもたちに薬物乱用の恐ろしさを教えるだけでなく、学校、家庭、行政、警察など地域全体で力を合わせて対応しなければなりません。

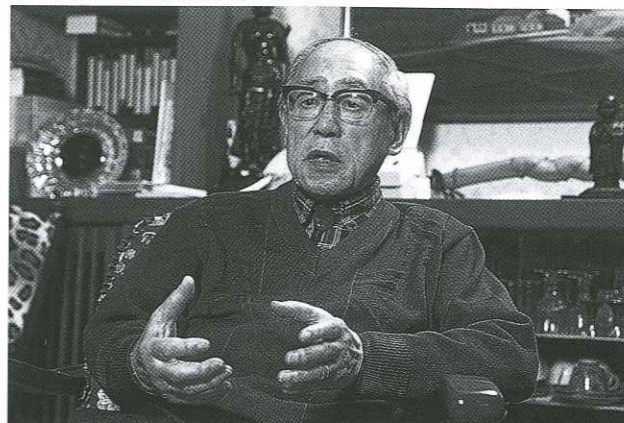
**芳賀** 子どもは大人を映す鏡といいますが、薬物の問題も子どもは被害者なんですね。いじめやいじめによる自殺、幼

児虐待といった最近の事件などについても思うんですが、大人社会が病んでいるからなんじゃないでしょうか。

**森谷** 昔、ナチス時代のドイツで、生まれたばかりの赤ん坊の片方のグループは愛情たっぷりに育て、片方のグループには話しかけもせず寝かしつけたまま機械のようにミルクを与える実験をしたそうです。そうすると一年後、愛情たっぷりに育てたグループはみんな元気に育ったのに、機械のように育てた赤ん坊は半分が死んでしまった。今では許されない実験ですが、信頼できる心の拠りどころを持って育った子どもは心身ともに強いのです。三つ子の魂百までと言いますが、三歳くらいまでの幼児期が特に大切です。片親の家庭、仕事で親が忙しい家庭も多いでしょうが、できる限りの時間を作って子どもと心を通わせていただきたい。そういう子どもは、誘われても薬物に手を出しませんし、もし手を出してもすぐに親が気付いて、迅速な対応で依存にならずに助かります。そういう例も多くあります。今度、依頼を受けて小学校のPTAで講演するんですが、お母さんたちにこそ薬物問題を一緒に考え、乱用を防ぐ大きな役割を果たしていただきたいんです。

**芳賀** 個人の問題であると同時に、この国の未来にも関わる問題ですものね。

**森谷** はい。ですから「甘い誘いには絶対にのってはいけません。薬物をやったら一生が終わり」—そう言い続けます。



柏町	うなぎ専門店 うなちゃん	柏町4-61-13 536-6240
京町	ハウジングワールド立川	京町935-1 527-1321
	東京消防庁 立川消防署	京町1156-1 526-0119
緑町	陸上自衛隊 立川駐屯地	緑町5番地 524-9321
	独立行政法人 国立国語研究所	緑町10番地-2 540-4300
曙町	うなぎ しら澤	曙町1-9-21 524-5061
	有限会社 クスミ不動産	曙町1-16-2 522-4739
町	不動産 大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
	ヤマハエブリプラス立川店	曙町1-27-10 523-1431
曙町	蕎麦懐石 無庵	曙町1-28-5 524-0512
	TABACCONIST ゼフィルス	曙町1-28-9 524-0514
町	ピストロ シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
	あら井鮨総本店	曙町1-30-13 522-2957
町	Cut Studio SOFIA	曙町1-30-21 528-3241
	三田花店 ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 527-5587
町	KIRIN COFFEE ルミネ店	曙町2-1-1-1F 527-2322
	オリオン書房 ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
町	東京赤十字血液センター	曙町2-1-1-9F 527-1140
	和生菓子製造直売 日の出屋 本店	曙町2-2-18 522-3308
町	オリオン書房 第一パート店	曙町2-2-25-3F 523-3311

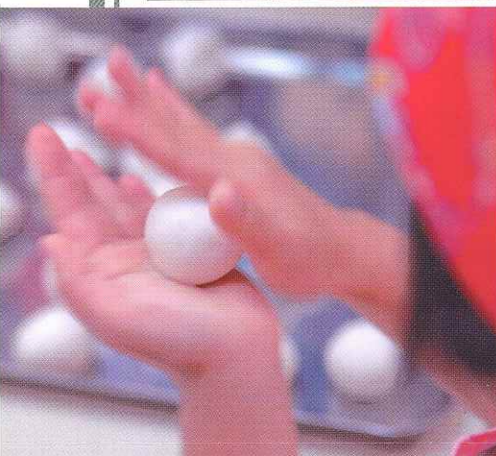
えくてびあんの輪  
立川と語ろう 立川に生きよう  
えくてびあんは  
リストのお店にいつもあります

今月は 柏町・京町・緑町・曙町のお店です。

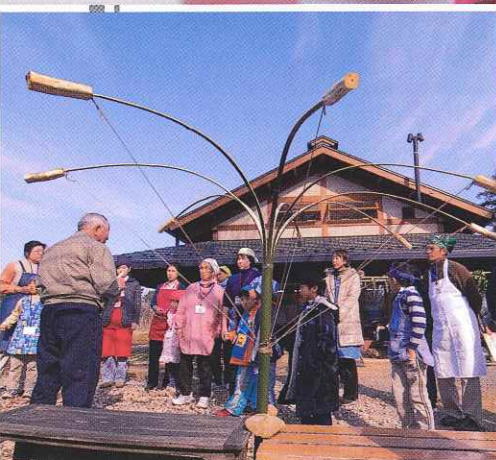
みずほ銀行 立川支店	曙町2-4-6 524-3121
お菓子の家 エミリーフローゲ 本店	曙町2-5-1-1F 527-1138
カフェ クリムト	曙町2-5-1-2F 526-3030
宮地楽器 MUSIC JOY 立川北	曙町2-5-18-7F 527-6888
三井住友銀行 立川支店	曙町2-6-11 522-2151
Italian Cuisine サヴィニ	曙町2-7-10 525-1662
Art&Caffee Room 新紀元	曙町2-7-21-4F 528-6952
多摩信用金庫 本店	曙町2-8-28 526-1111
たましんギャラリー	曙町2-8-28-9F 526-1111
旬彩懐石 若草茶屋	曙町2-8-30 526-0010
三上鯉節店	曙町2-8-30 522-3259
輸入文具 ホワイトハウス	曙町2-11-2-4F 525-8558
スタンドグラス ばさーじゅ	曙町2-11-2-4F 522-1941
輸入雑貨 BASE 26	曙町2-11-2-4F 548-4326
スパゲティ専門店 はしや	曙町2-11-2-4F 528-2338
立川リージェントホテル	曙町2-11-7-2F 522-1133
フランス風家庭料理 ラ・フランス	曙町2-11-8-6F 529-5522
ビックカメラ 立川店	曙町2-12-2 548-1111
Wine & Dining るもん	曙町2-12-13 527-3022
三菱東京UFJ銀行 立川支店	曙町2-13-3 524-4121



どれも里の周辺で採れた野草



おかずも里で採れた野菜



「あはへば」を前に説明を聴く



# 七草は、こう食べる

「こもれびの里」伝統行事体験

せり、なすな、御形、はこべら、仏の座、すずな、すずしろ、これぞ七草——これらを細かく刻み入れた七草粥は正月七日の伝統食。正月に限らず早春の植物の生命力をいただく思いがする。国営昭和記念公園の一角に武蔵野の農村風景づくりをしている「こもれびの里」で、七草粥や養蚕地帯に伝わる「繭玉」づくりなどの伝統行事を体験した。

「こもれびの里」の七草は、すべて里の畑や周辺で採れたもの。今の呼び方で言えば、御形はハハコグサ、はこべらはハコベ、仏の座はタバコ、すずなはカブ、すずしろは大根。若い野草やカブ、大根の葉は茹でて細かく刻み、里の田んぼから収穫した米で軟らかく炊いた粥に混ぜ込む。

子ども連れが参加した伝統行事体験では、これも昔から伝わる繭玉づくり。米の粉を蒸して丸くまるめ、できた団子をシラカシやコナラの枝にさしていく。クチナシで染めた黄色い団子や蜜柑も、野生の蚕が木の枝につくった繭を模して繭の多産を願ってきた。

養蚕農家がなくなり、多くの農家では団子をつくっても枝にさすことは珍しくなったが、この里では昭和三十年頃の習慣そのままに、石臼の穴に差し入れた枝にきれいに飾りつけていく。堆肥場にさして、穀物の豊作を願う「あはへば（粟穂稗穂）」も、他ではすっかりすたれてしまった行事。割り竹の先にヌルデの小枝をさしたかたちは、ずっしりと穂の重い粟や稗の姿。

繭玉が飾られた下で、熟々の七草粥をすすり、すべて目の前の畑でとれた野菜を使った煮物や漬け物を食べる。もうすぐ来る春を前に若菜の鮮やかな香気を楽しみながら、新しい年の豊作を願った昔の人々の気持が、少し感じられるように思う。

写真・五来孝平

粥はかまどにかけて





立川と多摩地域が  
もっと楽しいホームページ

**多摩てはこ  
ネット**

http://www.tamabako-net.ne.jp/

多摩てはこネット編集工房  
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F  
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609  
e-mail message@tamabako-net.ne.jp

**常楽我浄**  
真如苑提供番組くじょうらくがじょう

スカイパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分  
午後7時15分～7時30分  
再放送/火曜 午前9時～9時15分  
午後7時45分～8時  
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて七十一一年

**真如苑**  
柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

**パレスホテル立川**

〒190-0012 東京都立川市曙町2-40-15

お問い合わせ、ご予約は  
TEL 042-527-1111  
FAX 042-527-5169  
http://www.palece-t.co.jp

大廣社は今、「知的集約」型企業を実践しています。

先進のシステムと最新技術との融合

伝達を使命とする情報産業の一翼を担う大廣社は、新しい時代の新しい表現を責任持って拓くために、クリエイティブから最終製品にいたるまでの一貫体制を構築しています。

株式会社 大廣社  
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13  
tel 042-527-1911  
fax 042-527-1949  
E-mail info@daikousya.jp  
http://www.daikousya.jp/index.html

えくてびあん流

**「たちかわのイメージ」はどんな歌?**  
3月18日「まちおんフェスティバル」で披露

あなたの感じた立川のまちを歌にしてくださいー市民団体の呼びかけに応じて集まった歌から、新しい立川のイメージソングが生まれ、3月18日アミューたちかわ大ホールで、お披露目が行われる。

立川駅周辺の歩行者専用デッキなどで演奏している若いアーティストたちを応援し、ストリート演奏を街の文化として考えようと活動している市民団体「立川まちおん」が、インターネットや公募雑誌で募集した。未発表曲ならプロアマ、年齢等一切問わず、自由な発想で…という募集に20曲以上の応募があり、選考会での審査によって優秀賞1作品を決定。立川市観光協会も後援し、優秀賞受賞曲はCD化、イベントなどの場で流される。優秀賞作品は、ストリートで活動するミュージシャンたちを一堂に集めた「まちおんフェスティバル」の特別イベントとして、演奏・披露される。立川のイメージがどんな歌になるのだろう…。

「まちおんフェスティバル」は3月18日(日)午後1時から立川市市民会館(アミューたちかわ)大ホールで。入場無料。



「まちおんフェスティバル」イメージキャラクター 立川弦

この人この店 ④

**スペイン料理  
ロス・クアトロ・ガトス**

代表 若山高次さん

スペイン料理と言えばパエリア!かと思ったら、他にも実に豊富なメニューです。本物の味を引き出すために素材は本場スペインと毎朝築地の市場から。「素材にはこだわってるんです」と若山さん。始まりはランチだったそうですが、きどらないスペイン料理にはまっちゃったのだとか。この日は酸味の利いたソースがおいしい「仔羊のソテー羊飼風ソース」とジャガイモの入ったスペインオムレツを頂きました。あっという間に美味しいものを作っちゃうんですね!「もう38年やってますから…」と、料理もいけど笑顔も溢れてかっこいい。実はこの方、以前このコーナーでご紹介した「天ぶらわかやま」若山正蔵さんのお父さま。立派な息子さんですね、どんな教育をしたんですか?「いつも家にいなかったから、彼がどんな風に育ったのか知らないんですよ」。親の背を見て育ったんですよ。きっと!厨房に立ったところがそっくりなもの。

〒190-0012 立川市曙町2-23-9 阿部ビル2F  
TEL 042-528-1654  
営業時間 ランチ 11:30～14:30 (14:00 L.O.)  
ディナー 平日 17:00～22:30 (21:30 L.O.)  
土・日・祝日 17:00～22:00 (21:00 L.O.)  
定休日 月曜日



写真撮影: 五来孝平

たちかわ散歩道 ⑧

**立川南口から緑川・東立川方面を歩く**  
街の変容と時代の変遷を感じながら

挿絵と文 ■ 森 信保

立川駅南口①周辺の商店の一部は、終戦後の混乱期に駅北口拡張整備のため、駅前周辺の出店を駅南側に移転させられたともいわれ、食堂、飲み屋の街として栄えた。かつて江戸道と呼ばれた府中方面への道②をホテル前の大通り交差点へ。五叉路から小道に入り南武線の踏切を渡ると羽衣町。「柳通り」を進むと小さな交差点の角に「真言宗立川山正楽院」があり、錦町方面からきた旧万願寺道と合う。この南北道は旧五軒屋道③とも言われ、「第六小学校」横道を直進し羽衣町一丁目をぬけて北上し、国立市青柳から国分寺を通り田無(西東京市)方面に至る古道である。そこを左折し「いちよう通り」(緑川覆蓋道)へと出る。

「緑川」は大戦の末期、駅北口・飛行場周辺の排水路として開削された。西砂町と立川駅前の標高差が約40mあり大雨が降ると駅周辺は水浸しになるため、その排水対策だった。起点は現在の「プラザシティ立川」前あたりで、そこから曙町、羽衣町、国立市青柳を経由して青柳先で多摩川に流入する延長約4kmの川だ。工事は昭和22年に全線の素掘りが完成し大雨時の洪水からようやく解放された。しかし、素掘りの頃は米軍基地から出た多量の油が浮いて流れ、それに引火して羽衣町や曙町に火災が発生したりした。また川の両岸がコンクリート壁になると誤って川に転落する事故などもあって危険なため、川の上を順次暗渠にして道路や駐車場、公園として活用されるようになった。

「羽衣大通り」を横断すると旧羽衣橋④



横の「緑川第一公園」。戦前、この辺りは文化住宅・「多摩荘」といわれた貸家が80数軒並び、旧航空廠や旧立川飛行機会社に勤める人たちが住んでいた。緑川はこの多摩荘をちょうど南北に縦断したため、一部移転させられたという。その西北には当時飛行機の点火栓(プラグ)を製造する「野沢工作所」(現在は自動車学校用地)などの工場もあり、戦前は飛行場と関係深い場所だった。

公園の東側道を北進しJR中央線手前を左折して「羽衣小橋」を通り、ほどなく「野沢踏切」⑤に着く。その西側道路奥角には踏切事故で亡くなった人の供養のため、昭和初期「発心地蔵菩薩」のお地藏様が建てられ信仰されている。JR踏切を渡って曙町へ。

緑川は大きく左にカーブして「緑川通り」⑥に出て駅北口方向へと進む。戦後、通りの右手にあった「リッカーミシン」跡地は「NTTドコモ」や高層住宅に変わり、かつて目についた「東京ガス」のガスタンクも高層住宅に隠れ、緑川は道路・駐車場と大きく変わり昔の面影を見ることはできない。しかし、現在の商都立川の発展と繁栄の基礎となった緑川大排水路建設、終戦前軍都整備で駅北口周辺家屋強制疎開などの時代の流れを思いながら、駅北口のメイン交差点を過ぎ高島屋前⑦に到着。

行程 ①立川駅南口—②江戸道—③五軒屋街道—④旧羽衣橋—⑤野沢踏切—⑥第二小学校前—⑦立川高島屋前

表紙の人

**野村 武志さん(曙町)**

戦後、立川駅北口に居酒屋を出したのは先代である父上。場所が地下に変わっても駅にいちばん近い居酒屋であることは昔も今も変わらない。終電近くまでここで呑んだサラリーマンも多いはず。コンクリートのたたきのテーブル席と小上がり。壁には処狭しとお薦めの料理・肴の数々。気取らない店は昼も夜も、仕事を終えた男たちの憩いの場所として賑わっている。兄弟がそれぞれに店を持ちまや「玉川グループ」と呼ばれても、原点ともいべきこの店は長兄のこの人が守る。

曙町「玉川」で 写真: 細江英公

かたこと

例年ない暖冬とはいえ、やはり本格的な春は3月に入ってから▼梅、こぶしに続いて桜。花の春は慌ただしい▼人の世の中も卒業や転勤、入学や就職準備などで忙しい方が多いでしょう▼えくてびあんも2月号から新連載「やきものごころ」がスタートし今月号は伊藤友紀さんの2回目。立川の3女性陶芸家をご紹介します▼何ごとも新しいことには期待と不安が半ばするものです。とりわけ若い頃は。自分のことを振り返っても青春の春は何とも心が揺れていました▼そこを乗り越えていくのが成長なのでしょうが、そんな不安定さにつけ込むように麻薬や覚醒剤などが若い層に魔手を伸ばしているといいます▼対談させていただいた森谷孝さんのおっしゃる通り、地域社会全体で子どもたちを薬物乱用から守ることが大事だと思います▼子どもは大人の世を映す鏡。教育論議が活発ですが、まずは大人が自らを省みることから始めたいもの▼自然はいつの時代も健康にめぐってきます。春の七草も芽吹きを待つ樹木も動物たちも。この冬の暖かさは地球温暖化の影響と言われます。人間はその命をいただいて生きている。身勝手さでこの星の未来を塞ぐことだけは避けたいものです。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子  
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)  
AMNET design factory  
写真 五来孝平/中村 伸

えくてびあん ③月号

第25巻 通巻268号  
平成19年3月1日発行  
発行 えくてびあん編集工房  
〒190-0012  
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F  
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065  
編集人 芳賀敏博  
発行人 加賀悦也  
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。



# やまもものごころ

## 立川の女性陶芸家 2

伊藤友紀さん（砂川町）②

幾何学的なものと遊びの要素、造形的にどちらかに惹かれます。寸法で切り取った土のパーツをつなぎ合わせたり、轆轤を使ったり——このコーヒーカップもそうですけど、かっちりとしたものを作っていると、手を自由に遊ばせたくなる。飾蓋付き

の花器はサボテンをイメージしながら遊んでいます。夫（陶芸家の光則さん）とは、出来上がったものを互いに批評はしても、制作中は余計なおせっかいはしませんね。壁につきあたった時は自分で前に進むしかないんです。



【飾蓋付花器(サボテン)】

【コーヒーカップ】

